



株式会社 ベアレン醸造所

100年以上前のドイツの設備を使うブルワリー。ビールは定番3種類のほか、季節限定など年間で30~40種類取り扱う。ほかにリンゴや洋ナシを使った果実酒も製造・販売。台湾を皮切りに海外輸出を開始

展開国・地域 2015年 台湾 2018年 米国、カナダ、スイス、イタリア
2016年 香港、オーストラリア
2017年 シンガポール

企業情報 所在地: 岩手県盛岡市 従業員数: 50名
設立: 2001年2月 URL: <https://www.baerenbier.co.jp>

事業内容 地ビールの製造・販売 / 飲食店経営



1

- 1 ドイツの仕込み室を日本に移設して使用している。見学者も多い
- 2 米国で採用している海外向け商品のラベル(左側2本)は漢字を使い日本らしさをアピールしている
- 3 2019年2月中旬に仙台で行われた商談会の様子



2



3

グランプリ受賞をきっかけに、海外輸出に挑戦

2015年に日本外国特派員協会主催「世界に伝えたい日本のクラフトビール」の第1回で、グランプリをいただきました。2001年の創業以来、地元・岩手の方に愛されるようにと地元密着で営業してきましたが、そのグランプリをきっかけにお声を掛けていただくことが増えたこともあり、海外に販路を拡大していきました。2018年に私が着任するまでは輸出専任の社員はおらず、いただいたお話に答えるのが精一杯でしたが、これからは海外輸出に力を入れていきます。100年以上前の機械で醸造しているというストーリー性は海外の方にも伝わりやすく、品質や味に関しても褒めていただけることが非常に多いですね。2019年4月からは、県北部の雫石に建設した工場が稼働します。こちらでは、これまでになかった缶ビールのラインも導入し、大量生産ができる体制を整えています。

ジェット口のツールを幅広く活用し、販路を拡大

ジェット口には、2017年8月から派遣してもらっている「新輸出大国コンソーシアム」の専門家をはじめ、いろいろな情報を的確に提供してもらっていますし、きめ細かな対応もしてもらって助かっています。例えば、一昨年輸出したオーストラリアに関しては、専門家からもらった輸出入関連企業のリストをもとにコンタクトをとった結果、受注につながりました。商談会や展示会に同席し、アドバイスをもらうこともあります。また、ジェット口の海外事務所のサービスで、進出先の酒屋情報や市場規模、市場可能性の調査を利用したこともあります。その他にも、セミナーの案内を受けることも多く、積極的に活用してもらっています。ホットなところで言えば、日EU経済連携協定(EPA)関連や、TPPの発効もありましたので北米関連のセミナーに参加しました。さらに昨年からはジェット口・メンバーズになりましたので、一気に利用が増えていますね。

いつかはドイツにベアレンを。世界に広がるロマン

現在、売り上げの割合としては、県内が65%、県外が25%、残りの10%がイベントでの売り上げです。海外の売り上げは全体の1%ほどで、まだまだ微々たるものですが、10年ぐらいかけて全体の10%を占めるようにしたいというのが今後の展望です。そのためにも、2018年からクラフトビールの本場である米国への輸出に力を入れています。米国で認知されれば、さらに世界へ広がっていくのではないかと期待し、商談会などにも積極的に参加をしています。ゆくゆくは、弊社が創業以来使ってきた機械の故郷でもあるドイツへ輸出できれば嬉しいですね。もし、100年前にドイツで作られていたビールが、岩手を経てまたドイツ国内に並んだら、すごくロマンがありませんか? そして最終的には、ここでしか飲めない出来たてのベアレンを飲み、世界各地から岩手に来ていただけるようになりたいですね。



専務取締役付 海外担当
内館 康喜氏

できたてのベアレンを飲み、
世界各地から岩手に
人が押し寄せるようになれば

専門家からのポイント



ベアレン醸造所の成功の要因は、常に自ら道を開こうという姿勢を持ち、新たに海外担当者を採用して海外輸出に対する本気度を対外的に示されたこと、また日系の食品輸入卸業者とは、2018年からお付き合いがあり、先方の要望に真摯に対応し信頼関係の構築ができていたことなどが挙げられます。専門家としては、日系の食品輸入卸業者とは、専売とするのではなく、将来の非日系市場への展開も視野に入れて併売することをアドバイスさせていただきました。